

吟道月報

NO. 41

50.12.5

碩心会

一年又過ぐ

会長 三井 西玄山

三十代の十年、四十、五十、六十代の十年と、時間の長さには変りはないが、年代の進むにつれ、十年がだんだん短く感ぜられる。何故だかわからないが、その感じのあることは誰もが間違いないようである。

唐の崔敏童の詩に「城東莊に宴す」(四巻の45頁)と言うのがある。年の瀬近くなると思はれ、この詩を思い出して、静かに口ずさむ。一年又過ぐ一年の春、百歳曾って百歳の人無し、能く花前に向つて幾回か酔わん、十千酒を活うて會を辞する莫れ。この詩は勿論酒の好きな男性の気持だけを詠じたものではない。万人に通ずる處世訓を酒に托して歌ったのであろう。會を恐れず苦にせ

赤、花の時期には花を樂しみ、健康で酒を飲み度い時は、けちけちないで大いに飲んでくだ

わらない大きな気持で人生を暮らそうではないか、考えて見れば花をめで、その下で酒を飲むような様子は多くはないのである。との意味でしょう。花下陶然と酔うて老人の心を詩に托して詠ずる。又樂しからずやと會をなりに思うこの頃である。

皆林共々吟道の興隆、碩心会の発展を慶ぶこの一年の変わりぬゞ交遊を深謝します。どうぞ よいお正月をお迎え下さい。以上

吟道によせて

副会長 下條 拓風

月日の流れは、あたかも、空行く雲のように、私達の視界から、まぼろしとなり、この年も余すところ、僅かにして、昭和五二年の聖代が、人々の夢と希望を

背負って訪れようとしている。私が偶然の出会いで、詩吟の道に入門したのが、昭和三十三年の秋と記憶しているが、それはつい、昨日のように思える。当時逗子市旧消防署の控室をスタートして、同市なぎさ会館に移り、次いで鎌倉市大船の郷土見会館へ、いま茅ヶ崎市中海岸の県立青少年会館へと、ちよつとした行脚がつづき、また、つづいている。

それは、と云えば、表現が、いささか私的な見方に、なるのであるが、まず一に、古今の史実を集約した、詩文の詠詠によつて、ありし日の事跡や、秘められた無限の心情を声の抑揚によつて、訴える藝術であり、決して、名所旧跡を訪ねて、往時の自然や古人に接する、ごとき、悠久な想像の世界に浸ることができない。そして吟道の、心を同じゆうする、多くの人々とともに吟法を究め、語り樂しむ。

まだ多くの、魅力をもっているが、これだけでも、私の人生にとつて、言い知れない心の糧となり、時に活力となり、励みとなるからである。

らである。

ここで、ちよつと思うことは、吟道の培かいに、漢詩を題材として、系統的に、歴史に因む講話を聴く会のような催しがあれば、趣味の範囲が深まり、吟道の楽しさに、そのうるおいを、もたらすのではなからうか。と、だんだんその欲求が強まるような気がする。これは、私の現在における希望であると受けとめていただきたい。

では皆さまのご発展と、ご健康をお祈りしながら、

遠い昔を偲んで

副会長 井沢朝風

本年も早や年末になりました。皆さんと共々吟道を勉強してまいり早十六年が過ぎました。私は体が弱かったので、此の道に入りましたが、吟は仲々思ひ様にはいきませんが、身体だけは丈夫になりました。それは腹の底から大きな声を、カいっばい出す、それが丈夫になる秘訣で、ようね。

自分が御世話になった当所の冬の夜は、ス
トースに薪をたいて、其のまわりに腰を掛け
て七、八人でカ一杯、夢中で声を張り上げた
のを思いうかべると、過ぎた昔が懐しく偲ば
れます。

それが、今は三百数十人になりました。と
は夢のようですね。

最後に 皆杯の御健康と、会のますますの
発展をお祈り致します。

昭和五十年を顧みて

副会長 竹石憲風

光陰矢の如しとか、多忙であればあるほど
一年は早いものであります。趣味とは申せ、
多忙な毎日の余暇を吟道に精進していると、
このことを痛切に感じます。一月十二日逗子
京急ビーチセンターで、大仏間一杯を埋め尽
くして、終始なごやかに、吟詠や余興に一日
を楽しんだ当会初吟会懇親会も、つい昨日の
ように感ぜられるが、もう納吟の会が、各敬
場で行なわれる季節となりました。この向会

員は増加の一途をたどり、六月一日施行され
た当会の温習会には会員多数の参加を得て、
熱吟また熱吟、日頃の練習の成果を遺憾なく
発揮され、特に今年初の合吟コンクールは白
熱化し、身のむきしまる思いでした。また今
年は逗子地区で初めて一回の温習会が開催されま
したことは、実に有意義であったと思います。
会員増加に伴い県大会、地区大会への参加は
順番制をとっている関係で容易に参加出来な
い現状では、このような発表の場をつくるこ
とも、今後益々必要かと思考されます。
会員の皆さん、健康で良き年を迎えられ、新
らしき年も会員相互の和をモットーとして、
終着駅なき吟道に精進されることを切にお祈
り申し上げます。

碩心会本部関係

◎ 五十年慶納吟会は一忒左の通り行われます。

十二月十二日(金) 銀詠支部

十二月十三日(土) 大船支部、戸塚支部合同

十二月十四日(日) 堀内支部

十二月十五日(月) 一色支部、下山口支部合同

〃 (月) 長柄支部

十二月十六日(火) 沼間支部、建設支部

十二月十七日(水) 蓮子E支部(昼間)、山の根支部

十二月十八日(木) 梅山支部(昼間)

〃 蓮子A支部

十二月十九日(金) 松和支部、滝ノ坂支部

十二月二十日(土) 上山口支部

◎ 昭和五十一年初吟会は、別途報告通り一月十八日

(日) 十時半〜十六時、蓮子京急ビル、セニタ

一に於て行はれます。

会費二千円、参加会員二百人以上となる予定です。

退会々員

58	沼間支部	池田東山
207	〃	臼居敬泉
220	〃	桐谷夕カ子

新会員

滝ノ坂支部	稲子信義	葉山町一色三七〇
〃	矢部寅八	葉山町堀内九〇三
〃	宮井米三	葉山町一色八八三
〃	月居節四郎	葉山町一色一五五一

電(75) 二四二五番

電(75) 〇〇九五番

電(75) 二八四六番

新会員 (へつびき)

滝ノ坂支部	鈴木義男	葉山町一色八一三	電(75)	二一三一
"	行谷正一	葉山町一色八五八	電(75)	五〇九六
"	木村君男	葉山町一色七〇九	電(75)	七二〇四
"	大高良男	横須賀市平作7の2の6	電(51)	五九二〇
堀内支部B	中村高三 (園泉)	葉山町堀内八〇四	電(75)	一六一六
堀内支部E	山地律格 (園泉)	葉山町堀内一〇三〇	電(75)	一〇九九
"	武士通隆	葉山町堀内八一五	電(75)	七六五四
"	小山泰治	葉山町堀内一〇六六	電(75)	〇五四四
"	矢島弥一	葉山町一色三五〇二	電(75)	二四八六
"	加藤清蔵	葉山町堀内一〇八〇	電(75)	一五六九
桜山支部	赤羽高子	逗子市逗子の8の6	電(71)	一〇三九

移籍

磯村朋子 桜山支部より 逗子B支部へ

江 鈴木一男 長柄支部より 堀内支部A班へ

(ハヤ号退会とあるは尚違につき削除訂正のこと)

転居

149 佐竹未子 浦和より(桜山支部)

逗子市逗子二の9の23
電(71) 三三四三

改姓住所変更

278 逗子B 蒲池トミ子は田辺トミ子

住所 横須賀市鶴ヶ丘一の8の5

とそれぞれ変更

電話番号変更

37 大船 若林志津 の電話番号

〇四六七(46) 二四〇二

番地変更

40 大船 渡辺キミ江 の住所

中野町二の七を 中野町七三の七